

# 平成23年度 徳川園紅葉祭 小学生・中学生俳句大会

平成23年11月18日から12月4日まで「徳川園紅葉祭」の一環として開催した「小学生・中学生俳句大会」は、投句用紙の数にして367件のご応募をいただきました。たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

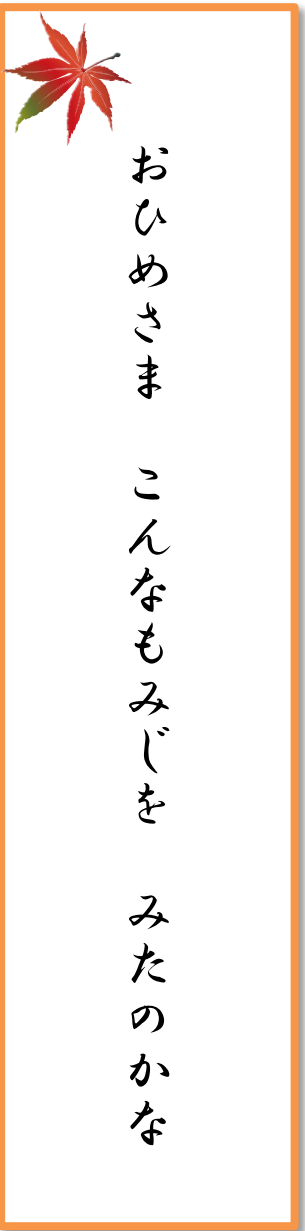
審査会を行った結果、最優秀作品 小学生の部2点、中学生の部2点、入選作品 小学生の部6点、中学生の部3点を次のとおりに決定いたしました。（賞・部門ごとに学年順・五十音順・敬称略）

## ◆審査会委員（五十音順）

井澤 昭雄（四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人）  
加藤 啓子（公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館 企画情報部 課長）  
桐原 千文（名古屋市蓬左文庫 文庫長）  
高岡 豊彦（財団法人名古屋市みどりの協会 徳川園管理事務所 所長）

## 《最優秀作品・小学生の部》

名古屋市立矢田小学校（東区） 一年 北村 唯華（きたむら ゆいか）




徳川園は、江戸時代の大名庭園を元にした日本庭園です。尾張徳川家ゆかりの土地にあります。江戸時代、お姫さまもこのような日本庭園で赤く色づいた紅葉を見ていたはず。作者は時空を超えて、お姫さまと一緒に紅葉を楽しめました。

【審査員 加藤 啓子】

名古屋市立旭丘小学校（東区） 三年 草間 美咲（くさま みさき）



池の中 こいともみじが にらめっこ



とくがわえんこうようさい  
徳川園紅葉祭、 龍仙湖畔に大きな色とりどりの緋鯉の群、大きな口をばくばくさせています。折から水面に舞い散る赤や黄のもみじの葉、ひしめく鯉がそれを追う瞬間をよくとらえて「にらめっこ」という表現はなかなかのものです。

【審査員 井澤 昭雄】

《最優秀作品・中学生の部》

私立滝中学校（江南市） 二年 松田 裕子（まつだ ゆうこ）

天高く 妻肥ゆる秋と 父笑う

とある秋の日に、家族で食事を楽しんで帰りでしょうか。歩きながら、満足感から空を見上げて冗談を言い合う父母を、ほほえましく眺めている作者の様子が目に浮かびます。「父笑う」という言葉が「そして家族みんなが笑いだす」を連想させます。

【審査員 高岡 豊彦】

名古屋市立桜丘中学校（東区） 三年 伊藤 諒太郎（いとう りょうたろう）



写真撮る 家族をつつむ もみじかな

紅葉こうようの下したで写真しゃしんを撮とる家族かぞく。そこに創つくり出だされたあたたかくも、やさしく、ほほえましい空間くうかんを見守みまもるかのように包つつみ込こみ込こむ真まつ赤かな紅葉こうよう。「つつむ」という表現ひょうげんによって、家族写真かぞくしゃしんのワンカットとともはなにそこはなに生うまれた家族かぞくが放はなつ空気感くうきかんまでが伝つたわってきます。

【審査員しんさいん 桐原きりはら 千文ちふみ】

### 《入選作品・小学生の部》

名古屋市立矢田小学校（東区） 二年 古川 ひまり（ふるかわ ひまり）



おにまんじゅう はじめてつくる 秋のあじ

名古屋市立山吹小学校（東区） 二年 宮脇 祐久（みやわき たすく）



もみじさん 木からおちたら 川下り

名古屋市立城北小学校（北区） 三年 石黒 結人（いしぐろ ゆいと）



秋の道 もみじのダンス ひらひらり

名古屋市立筒井小学校（東区） 四年 松岡 謙心（まつおか けんしん）



秋になる ごはんおいしい のこよない

名古屋市立旭丘小学校（東区） 四年 山田 健登（やまだ けんと）



柿の木に のぼって月を ながめる夜よ


名古屋市立明倫小学校（東区） 六年 谷本 優萌香（たにもと ゆめか）



何枝も 優しい優しい 赤色が

《入選作品・中学生の部》

名古屋市立矢田中学校（東区） 一年 伊藤 晃平（いとう こうへい）

  
虫むしの音ねが 残暑よるの夜に さようなら

名古屋市立矢田中学校（東区） 一年 島田 風子（しまだ ふうこ）

  
あたたかい もみじをひろった 私の手

名古屋市立富士中学校（東区） 二年 森 達也（もり たつや）

  
実りある 秋の隣りに 徳川園

## 《総評》

徳川園の俳句大会に参加していただいた小学生、中学生の皆さん、どうもありがとうございます。ございました。

さて、今回の最優秀作品に選ばれた4点は、いずれも魅力的ですばらしいものでした。小学生、中学生の皆さんは、どうしても学年による国語力に違いがありますので、審査の観点としては、「さりげない情景の切り取り」に加えて「他者への共感や愛情」、「人とのつながり」といったことが、年齢に応じた言葉で表現されていることを重視しました。結果として、審査員の心に強く残ったものが最優秀作品に選ばれています。他の入選作品にも、面白く、楽しく、生き生きとした言葉があふれており、また、選外の作品にも心を留めるものが多々あったように感じます。

徳川園および隣接の徳川美術館、名古屋市蓬左文庫は、尾張徳川家由来の歴史文化施設として知られています。それぞれの施設において、あるいは一体として、風景、歴史、記録、表現がとても大切にされています。このような場所であることを意識しながら、季節の情景を凝縮して表現する「俳句」を作ることは、小学生、中学生の皆さんにとって、言葉を慈しむとてもいい機会になったのでは、と思います。

また、今回の大会で小学生や中学生の皆さんが俳句を考えるにあたって、助言や指導をしていただいた保護者、学校教員の方々もいらっしゃることでしょう。子どもたちが自らの感性や想像を言葉にして表現する楽しさに、これからもぜひ、ご一緒に参加してあげてください。

審査会代表 徳川園管理事務所長 高岡 豊彦